

『持続可能な開発目標(SDGs)実現のための企業の取組みを学ぶ』

主催 全国ユース環境ネットワーク事務局
(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金)
共催 キリン株式会社
協力 株式会社クレアン、大阪大学環境サークルGECS
事務局 特定非営利活動法人いけだエコスタッフ

2017年10月、環境活動を実践している2府4県の高校生や大学生が集い、「持続可能な社会」について研修を行いました。基調講演と事例研修では、SDGs達成のための企業の具体的な取組みを知ることで、ユース世代として消費者としてできることを考える機会となりました。さらにワークショップでは、高校生と大学生が交流しながら意見交換を行い、多くの学びを得ることができました。近畿地区 高校生SDGsセミナーの様子をお伝えします。



企業研修

KIRIN

飲み物一つで世界とつながっている。生産地から持続可能な取り組みが必要

藤原 啓一郎 キリン株式会社
CSV 戦略部 シニアアドバイザー

飲料事業は生物資源と水資源などの自然に支えられた事業ですが、今どちらも地球温暖化で脅かされています。生物資源については、「持続可能な生物資源利用行動計画」を作り、取り組みを進めています。その一つが当社の製品「午後の紅茶」の茶葉主要生産地スリランカの紅茶農園へのレインフォレスト・アライアンス認証取得支援です。この認証を取るには厳しい基準をクリアしなければなりません。そこで、農園や周辺の生態系保護、人権の観点から農園で働く人の労働環境の整備、安易な焼畑農業で森林伐採しないよう農業技術の指導も行っています。さらに、大量の容器包装を使う企業として、2020年末までに全ての紙容器を適切に管理された森林の木材から作られたFSC®認証紙に切り替える目標を発表し取り組んでいます。1社では世界中の森林伐採問題は解決できないので、複数の企業が手を組んで活動しています。飲み物一つとっても紅茶葉、水、容器などで世界とつながっています。認証マークだけで商品を選ぶ人は少ないでしょう。しかし、消費者が生産地の努力を知り何ができるかを考えることは重要です。



基調講演

SDGsを通して、「ええやん!」と思える未来をワクワクしながら思い描く

薗田 紗子 株式会社クレアン代表取締役、
持続可能な目標開発(SDGs)ステークホルダーズ・ミーティングメンバー(環境省主催)

17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」は、未来を明るくするための共通言語です。SDGsの特徴の一つとして、「環境」「経済」「社会」がバランスよくインテグレートされていく「統合性」が挙げられます。そのためにはNGOだけでなく、企業も主体的に取り組んでいく必要があります。企業の価値と社会の価値を共創することで、約1350兆円の経済的価値と3億8000万以上の雇用を生み出すことができると言われています。「環境・社会・企業統治」に配慮し、優れた経営をしている企業に投資する「ESG投資」が注目され、社会的信用を得るために企業が積極的にSDGsに取り組み始めました。「誰一人取り残されないハッピーな社会」を実現していくために、自分に何ができるか、企業をどう変えていけるか、私たちも声を挙げて行動していかなければなりません。その際に有効なのが、将来のあるべき未来の姿から現在を振り返るバックキャスティングという発想法です。そして、未来のことを考えるのは楽しい、「こんな未来やったらええやん!」とポジティブにワクワク発想することを大切にしてください。



ワークショップ

「もしドラえもんが2030年の世界からきたら ~バックキャスティングで創造する2030年の姿~」

ファシリテーター 薗田 紗子 グループファシリテーター 大阪大学環境サークル GECS

SDGsに取り組まなければ、私たちの未来の2030年はどうなってしまうかを考えるワークショップからスタート。「気候変動と人口増加で食料不足に陥る」「生態系が崩壊し、多くの動物が絶滅する」など、様々な問題が書き出されました。「今が0だとすると、2030年は何点になるか」と薗田さんからの問いに、全員がマイナス点に拳手。続いて、そのマイナスをプラスにするために、未来から考えるバックキャスティングを体験しました。課題は、2030年からドラえもんがやって来て、SDGsを解決するために秘密の道具を何か一つ出してくれるしたら何を出してもらうか。増えるミラーで食料不足を解消する、タイムふろしきで伐採した木を生き返らせるなどのアイデアが。「未来を考えるのは楽しいこと。できないと思ったら実現できない。2030年にハッピーな未来を作るのは私たちです。そのためにはパッションを持って、仲間を作り一歩ずつ進んでいきましょう」と薗田さん。

